

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成27年1月22日(2015.1.22)

【公表番号】特表2013-515086(P2013-515086A)

【公表日】平成25年5月2日(2013.5.2)

【年通号数】公開・登録公報2013-021

【出願番号】特願2012-543596(P2012-543596)

【国際特許分類】

C 08 L	23/10	(2006.01)
C 08 K	3/34	(2006.01)
C 08 L	23/08	(2006.01)
C 08 L	23/16	(2006.01)
C 08 J	3/22	(2006.01)
C 08 F	4/02	(2006.01)
C 08 F	4/58	(2006.01)

【F I】

C 08 L	23/10	
C 08 K	3/34	
C 08 L	23/08	
C 08 L	23/16	
C 08 J	3/22	C E S
C 08 F	4/02	
C 08 F	4/58	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年11月28日(2014.11.28)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

すべて重量%で表して、

A) 50から85重量%の、プロピレンホモポリマーからなるポリプロピレン成分であって、少なくとも85重量%のプロピレンを含み、下記式：

$$\frac{1}{n} MFR^A = [WA^1 / (WA^1 + WA^2)] \times 1/n MFR^1 + [WA^2 / (WA^1 + WA^2)] \times 1/n MFR^2$$

(上記式は、ポリプロピレン成分が2ポリマー成分A¹、A²からなる場合の式であって、式中、WA¹とWA²は、それぞれ成分A¹)とA²)の重量を表し、MFR^Aは、A)のMFRの計算値を、MFR¹とMFR²は、それぞれASTM-D1238、条件L(230、2.16kgの荷重)で測定した成分A¹)とA²)のMFRである)

で表されるMFR-L値が100g/10分以上で、室温でのキシレンへの溶解度が20重量%未満であるものと；

B) 3~20重量%の、エチレンと一種以上のC₄-C₁₀-オレフィンとのコポリマーであって、15~35重量%のC₄-C₁₀-オレフィンを含み、室温でのキシレンへの溶解度が50重量%より大きく、キシレン可溶性の画分の固有粘度が2.5~4dL/gであるものと；

C) 10~35重量%の、エチレンのプロピレンとの一種以上のコポリマーを含むコポ

リマー成分であって、エチレン含量が 60 重量 % 以上であり、室温でのキシレンへの溶解度が 50 重量 % より大きく、キシレン可溶性の画分の固有粘度が $2 \sim 4 \text{ d l/g}$ であるものと；を含むポリオレフィン組成物であって、

A) と B) と C) の量が、A) + B) + C) の総重量に対する値であり、B) 中のエチレン含量 B_2 と C) 中のエチレン含量 C_2 の重量比 B_2 / C_2 が 1.4 以下で、その下限が 0.8 であるポリオレフィン組成物。

【請求項 2】

さらに A) + B) + C) の 100 重量部に対して 0.3 ~ 5 重量部の鉱物系充填材 D) を含み、前記鉱物系充填材は、タルク、 CaCO_3 、シリカ、マイカ、珪灰石 (CaSiO_3)、粘土、珪藻土、酸化チタン、ゼオライトからなる群より選択される請求項 1 に記載のポリオレフィン組成物。

【請求項 3】

A) + B) + C) の 100 重量部に対し、又は、A) + B) + C) + D) の 100 重量部に対して、0.01 ~ 0.5 重量部の核剤 E) を含む請求項 1 又は請求項 2 に記載のポリオレフィン組成物。

【請求項 4】

MFR-L 値が 10 g / 10 分以上 である請求項 1 に記載のポリオレフィン組成物。

【請求項 5】

成分 B) の室温でキシレン不溶性の画分 (XI) の比率が、以下の式：

$$(XI) < 1.14 \times B_2 - 34$$

(式中、 B_2 は成分 B) 中の、 B_2 の重量に対する重量 % で表したエチレンの量である) を満たす請求項 1 に記載のポリオレフィン組成物。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載のポリオレフィン組成物の製造に用いるマスター バッヂ組成物 であって、

すべて重量 % で表して、

A^I) 60 から 85 重量 % の、プロピレンホモポリマーからなるポリプロピレン成分であって、少なくとも 85 重量 % のプロピレンを含み、ASTM-D 1238、条件 L (230 、 2.16 kg の荷重) で測定した MFR-L 値が 20 g / 10 分以上 あり、室温でのキシレンへの溶解度が 20 重量 % 未満であるものと；

B^I) 15 ~ 40 重量 % の、エチレンと一種以上の $\text{C}_4 - \text{C}_{10} - \text{C}_1$ オレフィンのコポリマーであって、15 ~ 35 重量 % の $\text{C}_4 - \text{C}_{10} - \text{C}_1$ オレフィンを含み、室温でのキシレンへの溶解度が 50 重量 % を超え、キシレン可溶性画分の固有粘度が $2.5 \sim 4 \text{ d l/g}$ であるものとからなり、

前記 A^I) 成分が、前記 A) 成分の少なくとも一部となり、

前記 B^I) 成分が、前記 B) 成分となる

マスター バッヂ組成物。

【請求項 7】

MFR-L 値が 2 g / 10 分以上 ある請求項 5 に記載の組成物。

【請求項 8】

100 ~ 130 の間の温度で検出できる DSC 溶融ピークの H_m が 1 J / g 以上である請求項 5 に記載の組成物。

【請求項 9】

MgCl₂ に担持されたチーグラー・ナッタ触媒の存在化での重合で得られる請求項 5 ~ 7 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 10】

請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項 に記載のポリオレフィン組成物の製造方法であって、すべて重量 % で表して、

A^I) 60 から 85 重量 % の、プロピレンホモポリマーからなるポリプロピレン成分であって、少なくとも 85 重量 % のプロピレンを含み、ASTM-D 1238、条件 L (2

30、2.16 kg の荷重) で測定した MFR-L 値が 20 g / 10 分以上であり、室温でのキシレンへの溶解度が 20 重量 % 未満であるものと ;

B^I) 15 ~ 40 重量 % の、エチレンと一種以上の C₄ - C₁₀ - - オレフィンのコポリマーであって、15 ~ 35 重量 % の C₄ - C₁₀ - - オレフィンを含み、室温でのキシレンへの溶解度が 50 重量 % を超え、キシレン可溶性画分の固有粘度が 2.5 ~ 4 d₁ / g であるものと、

を含み、

前記 A^I) 成分が前記 A) 成分の一部となり、前記 B^I) 成分が前記 B) 成分となるマスター バッチ組成物を、前記 A) 成分の残部及び前記 C) 成分を含む他のポリオレフィン成分とメルトブレンドすることからなる製造方法。

【請求項 11】

請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載のポリオレフィン組成物を含む製造物。

【請求項 12】

ドアトリムの形の請求項 11 に記載の製造物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0005

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0005】

特定のプロピレンポリマーとエチレン / - オレフィンコポリマーを選択し、その組成物の他の特徴やいろいろな成分の比率を組み合わせることで、望ましいバランスの機械的性質（特に曲げ弾性率とアイソ Z ット衝撃強度）や低光沢度、溶融状態での好ましい流動性、低い熱収縮を達成できることが明らかとなった。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

このような場合には、A) の MFR-L 値は、それぞれ単一のポリマーの量と MFR-L 値を基礎として、既知のポリオレフィン組成物の MFR とそれぞれの成分の MFR との間の相関関係から容易に決定可能であり、例えば、二ポリマー成分 A¹ と A² の場合、この相関は、次のように表される。

$$1n \quad MFR^A = [WA^1 / (WA^1 + WA^2)] \times 1n \quad MFR^1 + [WA^2 / (WA^1 + WA^2)] \times 1n \quad MFR^2$$

式中、WA¹ と WA² は、それぞれ成分 A¹) と A²) の重量を表し、MFR^A は、A) の MFR の計算値を、MFR¹ と MFR² は、それぞれ成分 A¹) と A²) の MFR を表わす。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0063

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0063】

実施例 1 ~ 3 (実施例 1 ~ 2 : 本発明、実施例 3 : 参考例)

上述のようにして調整したマスター バッチ組成物 1 ~ 3 を、上記条件下で押出して、他の成分と機械的に混合する。これらの例で用いるポリオレフィン成分の比率を、上記ポリオレフィン成分の寄与分を集めて得られる最終組成物の成分 A) 、B) 、C) の量、また上述の MFR 対数値の相関関係から計算された A) の MFR-L の計算値とともに表 II

Iに示す。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0070

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0070】

【表3】

表III

実施例	1	2	3
マスター バッチ組成物の番号	1	2	3
マスター バッチの量			
組成物（質量%）	37	39	32
P P - 1（質量%）	26	20	20
P P - 2（質量%）	-	4	11
H e c o（質量%）	37	37	37
A)（質量%）	71.9	71.8	69.8
B)（質量%）	8.6	8.7	10.7
C)（質量%）	19.5	19.5	19.5
A) のM F R - L (g / 10分)	200	167	128
最終組成物の性質			
M F R - L (g / 10分)	37.6	26.3	22.9
曲げ弾性率 (M Pa)	1276	1253	1233
破断点引張強度 (M Pa)	21.1	21.3	21.3
破断伸度 (%)	4.1	7.3	9.3
23℃でのアイソット衝撃強度 (K J / m²)	4.7	7.4	4.6
10℃でのアイソット衝撲強度 (K J / m²)	3.9	5.4	4.0
縦方向の収縮率 (%)	1.19	1.21	1.01
横方向の収縮率 (%)	1.30	1.34	1.19
光沢度 (%)	22.5	25.2	29.7